

令和三年十月一日発行 第三十一巻第十号 通巻第三六四号（毎月一回一日発行）  
平成三年九月十八日第三種郵便物認可

# 槐 かい

岡井省二創刊

令和3年10月号

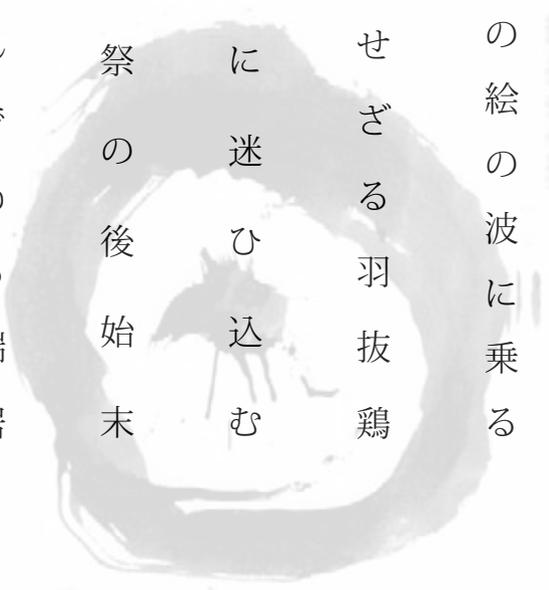


# スポットライト

高橋将夫

この星の最高峰は雲の峰  
木洩れ日がスポットライト黒揚羽  
仏法僧付度をして鳴きにけり  
一山がそのま主庭の夏館

青い目の人形が届る夏館  
まばたきに合はせ螢の明滅す  
サーフィンや北斎の絵の波に乗る  
人の世に気後れせざる羽抜鶏  
玉虫が心の中に迷ひ込む  
晩年はいはば祭の後始末  
考へることを休んでゐる端居





# 槐集

高橋将夫選

初蟬をまたこの胸に抱きける

枚方 阪倉 孝子

落し文女人高野の赤き橋

生きる限り紡ぐ言の葉雲の峰

ひようひようと閻魔詣やまだ生きる

流星の乱舞ありけり夢の中

銀漢や湯灌の初め逆さ

水中 貞子

白骨の佛据ゑたり雲の峰

風鈴の迷ふ心によく鳴りし

蟻地獄ブラックホールはこの世にも

飛翔する高さここまで赤蜻蛉

冥界の夜へあく窓黒揚羽

守口 三木 亨

琉金が尾鰭をつけて話しかく

今以て箱庭ほどの支配欲

命なるを見し日焼の人体図

人さらひ信じてしまふ大夕焼

風来る五感を育む秋の音

枚方 高野 昌代

物事に時は必ず田水張る

梅雨寒や咲かせる話も見つからず

旅籠屋に月宿らせて我もまた

雄々しきは風の撫でたる夏の富士山<sup>じ</sup>

雷雲は金剛山に胡坐かき

大阪 出利葉 孝

ガリバーがちよつかい出すや雲の峰

父と子は不器用にして青芒

少年の純真無垢な青田かな

鬼灯は死者の宴の色香かな

一人よし二人尚よし青田道

竹原 久保 夢女

青田吹く風喜びは沸点に

底の底記憶の海で吾は章魚

釣人の根気虎魚は気の迷ひ

海開き吾は翻車魚君海豚